

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
正しい漢字の使用・慣用句などの基本的な語彙を増やし、身に付けること	・目的に応じて、文章と図表などを結び、必要な情報を読み取ること ・目的や意図に応じて自分の考えを書くこと

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・促音・長音・拗音の表記や助詞の使い方が課題である。ア ・身近なことを表す語句を使って、文章の中で使うことがまだ難しい。イ	・正しい語句や文の表記の習熟の時間をとる。文の表記の指導では、特に「は」「を」「へ」などの助詞を正しく使用できるように個別指導する。 ・日常生活の中で、したことや思ったことを書き表したり、話したりする時間を設定する。	・毎週国語1単位時間 ・朝の会 ・各単元	
第2学年	・促音の表記や漢字の定着が課題である。ア ・文章の中の重要な言葉や文を考えて選び出すことに課題がある。イ	・漢字の習熟の時間を取る。普段のノート指導で語句の表記について個別に指導をする。 ・学級全体で文の中の重要な言葉や文を確認し、言葉や文にラインを引き、その理由を考えさせ、分かったことや考えたことを文章にまとめる。	・毎週国語1単位時間 ・各単元	
第3学年	・既習の漢字を日常生活の中で活用することに課題がある。ア ・整理して文章を書くことに課題がある。イ	・新出の漢字や既習の漢字をまぜた「漢字ミニテスト」を定期的に行う。また、ノート指導で、既習漢字の活用を促す。 ・「はじめ・中・終わり」を意識した文章が書けるよう工夫したワークシートを使って指導する。	・朝学習の時間、毎単元 ・「書く」単元	
第4学年	・学年別配当漢字の定着が課題である。ア ・文章や話の必要な部分に注意して読み取ることに課題がある。イ	・タブレットで個々が筆順を確認したり、何度も繰り返し練習できるようにしたりする。 ・児童同士の伝え合い学習を取り入れ、読み取った内容を比較したり、分類したりして相互に学び合えるようにし、読み取ったことを自分の言葉で書き表す。	・通年、毎単元 ・各単元	
第5学年	・漢字の定着が不十分なところがある。既習の漢字を適切に使用することができない。ア ・文章の中から必要な言葉を使って自分の考えを書くことに課題がある。イ	・漢字の読み書きや語彙力を高めるために家庭学習や朝学習の時間に、練習に取り組み、定着できるよう指導する。 ・文章の中から自分の考えを書くために必要な言葉を確認してから文章を書くようにする。定型文を提示して児童が取り組みやすくする。	・朝学習の時間 ・家庭学習 ・通年、毎単元	
第6学年	・既習の漢字や学年別配当漢字の定着が課題である。ア ・自分の考えを言語化することに課題がある。イ	・ノート指導など文章を記述する場において、既習漢字の活用を促す。 ・ペアやグループ活動で、自分の考えを表現する機会を意図的に設定する。必要に応じて定型文を例示する。	・「書く」単元 ・通年、毎単元	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

低学年：習熟の場面で、タブレット端末を活用し、言語事項等の知識・技能の習得を図る。【重点：個別】

中学年：タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、共有したりする。
【重点：協働】

高学年：タブレット端末を活用して、情報を収集や整理をしたり、調べたことを基に発表をしたりすることを通して自分の考えを深める。【重点：個別、協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年 めあてを振り返るとともに次時の学習への見通しをもたせる。

2年 めあての振り返りを学級全体で行い、次時の学習への見通しをもたせる。

中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。

高学年 本時のめあての振り返りでは、次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて				
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等		
資料から必要な情報を見付けて読み取ること		社会的事象について考え、判断したことを説明すること		
	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・グラフや図の見方や、必要な情報を選択し、活用することに課題がある。ア ・自分の考えを言語化したり、文章化したりすることに課題がある。イ	・ICT 機器や動画資料を活用して、視覚的に分かりやすく示したり、実生活と結び付けやすいように発問を工夫したりする。 ・ロイロノートの共有機能を活用し、友達の考えや文章に触れ、自分の考えをよりよくしていく。	・毎単元 ・毎単元	
第4学年	・グラフなどの見方は理解しているが、必要な情報を読み取することに課題がある。ア ・社会的事象に興味・関心をもち、社会的事象について自ら考えることに課題がある。イ	・グループ発表や個人発表を通して、グラフを用いた課題を多く取り入れる。 ・社会科に関わる体験(経験談・映像学習を含む)を多く経験させる単元計画を工夫する。	・通年 - 通年、各単元	
第5学年	・グラフなどの読み取り方、見方はわかるが、必要な情報を適切に読み取することに課題がある。ア ・資料から得た情報や既習事項、社会的事象を関連付けて考えることに課題がある。イ	・全体で資料の見方を確認した後、個別で資料を見て調べ、友達と共有する時間を設け、必要な情報が読み取れているか確認する。 ・調べたことや既習事項を基に自分の考えをノートに書いたり、友達に発表したりすることを通して自分の考えをもつことができるようにする。	・各単元 ・各単元	
第6学年	・グラフなどの読み取り方、見方はわかるが、必要な情報を適切に読み取することに課題がある。ア ・自分の考えをもち、説明をしたり、意見をまとめたりすることに課題がある。イ	・算数科との関連を図り、グラフが正確に読み取れるようにする。授業で、資料の見方を確認する。 ・資料などから根拠をもち、自分の意見を言える場を設ける。	・毎単元 ・通年	
■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について		■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について		
中学年 タブレット端末を活用し、写真や動画機能を用いて記録をしたり、調べてわかったことをまとめたりする。【重点:個別】		中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。		
高学年 タブレット端末を活用し、読み取った情報を分類・整理して話したり、調べたことをプレゼンテーションなどにしたりして説明をする。【重点:個別、協働】		高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。		

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能

イ 思考力、判断力、表現力等

基本的な計算力、図形の性質を身に付けること

日常の事象から算数の問題を見だし、筋道を立てて説明すること

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・繰り上がりのないたし算と繰り下がりのないひき算を、具体物を使わずに答えられる児童が少ない。ア ・文章問題の内容を理解し、正しく立式することに課題がある。イ	・具体的に操作する活動を十分に行った上で、計算カードを活用して、繰り返し習熟する。 ・キーワードや、図(ドット図)などを活用して場面を把握させ、たし算かひき算かが判断できるようにする。	・授業の導入時 ・家庭学習 ・各単元	
第2学年	・繰り上がりのあるたし算と繰り下がりのあるひき算の習得において個人差が見られる。ア ・文章問題の問題場면을正確にとらえ、正しく立式することが課題である。イ	・計算カードやプリントを活用し、繰り返し習熟する。 ・問題場면을イメージさせやすくするために、分かっていることや聞かれていることを整理して考えさせる。 ・視覚的な教材を用意し、具体的な場면을想像させる。	・朝学習、宿題による通年指導 ・毎単元	
第3学年	・図形の名称や特徴の理解に個人差がある。ア ・文章問題を読み、問題場면을正しく理解し、立式することに課題がある。イ	・図形の実物を用意して、図形の特徴を捉えることができるようにする。また、定期的に復習し定着を図る。 ・問題文に下線や印を入れながら、分かっていること、聞かれていることを整理する。また、図や式による表現の仕方を毎回丁寧に確認する。	・朝学習、各単元 ・毎単元	
第4学年	・九九の習得において個人差が見られる。ア ・問題解決の流れや結果を具体物、図、数、式を用いて表現することが課題である。イ	・計算の単元では、九九を復習する時間を入れる。 ・かけ算が使われている場面では、教員が式を用いて表現することで、日常的にかけ算の有用性を意識できるような発問を行う ・図、式などを自分の言葉で補い、図や式による表現のよさを考えさせる。苦手な児童には、ヒントを与え、言語化できるようにする。	・毎単元 ・毎単元	
第5学年	・図形の特徴や名称の理解が定着していない。ア ・小数のかけ算、わり算の習得において個人差が見られる。ア ・文章問題の内容を理解し、正しく立式することが難しい児童がいる。 ・図などを用いて自分の考えを表現することが難しい児童がいる。イ	・視覚的な教材や図形の実物を用いたり、デジタル教材を使用して実際に図形を動かしたりして具体的に図形の特徴を捉えられるようにする。 ・わかっていること、導き出さないといけないことを児童と確認してから立式できるように整理して考えさせる。 ・解答の理由を説明できる場면을授業の中に設けて、自分の考えを説明できるようにする。	・図形の単元 ・朝学習 ・毎単元 ・毎単元	

第6学年	・計算力、図形の性質への理解が身に付いていない。ア ・図、表、式などを用いて、自分の考えを筋道立てて表現することに課題がある。イ	・計算プリントを活用して、基礎的な計算力の向上を図る。図形の単元等では、図形の性質の復習を取り入れながら学習を進める。 ・図、表、式などを用いた解き方を途中まで全体で確認してから、自分で解決する時間を設ける。その後、図、表、式などを一人一人が言葉で補い、児童同士で、説明し合う時間を設定する。	・毎単元 ・図形の単元 ・毎単元	
■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について		■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について		
低学年：ICT 機器を活用し、学習の習得状況に合わせた問題を提示し、課題への理解を深める。【重点：個別】 中学年：タブレット端末を使用して、課題に合わせて、自分の考えを伝える。【重点：個別】 高学年：タブレット端末を使用して、課題に対する考えを共有し、対話的な学びを行う。 【重点：協働】		1年 めあてを振り返るとともに次時の学習への見通しをもたせる。 2年 めあての振り返りを学級全体で行い、次時の学習への見通しをもたせる。 中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。 高学年 めあての振り返りで、次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。		

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにすること。	各学年で主に育成を目指す問題解決の力を身に付けること。 (3年：差異点や共通点を基に、問題を見いだす。 4年：根拠のある予想や仮説を発想する。 5年：予想や仮説を基に、解決の方法を発想する。 6年：より妥当な考えをつくりだす。)

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・観察カードを書くときに観察の視点にそって書くことに課題がある。ア ・比較しながら問題を見いだし、実験の見通しをもつことが課題である。イ	・観察の視点を明確にし、それが分かるような具体的な文例を示す。 ・児童の気付きから、実験の目的や方法を確認し ICT 機器を活用して、視覚的に実験の流れを示す。	・観察のできる単元 ・実験のできる単元	
第4学年	・実験の結果から自然で起こる事象への理解につなげることが課題である。ア ・前に学習した内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現することが課題である。イ	・実験後に、実験結果と普段の生活で起こる自然現象とを比較して考える時間を設定する。 ・仮説、結果、考察の流れで学習を繰り返し、科学的な現象と実験を関連付けて考える流れをつかみやすいようにする。	・実験のできる単元 ・実験のできる単元	
第5学年	・学習したことを日常生活と結び付けて考える力が不十分である。ア ・条件を制御する必要性は理解しているが、自分で条件を整理して実験方法を考えることが課題である。イ	・日常の生活場面と結び付けて学習したり、視聴覚教材を使って学習したりすることで、知識や理解を深める。 ・実験方法を考えるときには、問題や予想を振り返り、「調べたい条件だけを変える」と良いことを指導する。	・毎単元 ・実験のできる単元	
第6学年	・実験の結果から自然で起こる事象への理解につなげることが課題である。ア ・問題を追究する中で、妥当な考えを作り出すことが課題である。イ	・実験後に、実験結果と普段の生活で起こる自然現象とを比較して考える時間を設定する。 ・考察の仕方を確認し、考察が終わった児童には、他の見方はないかを考えさせる。まとめ方の分からない児童には、例を示す。	・毎単元 ・毎単元	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
中学年 タブレット端末を活用し、写真や動画機能を用いて記録をしたり、調べて分かったことをまとめたりする。【重点：個別】 高学年 タブレット端末を活用し、実験の結果や調べたことを分類・整理して話し合ったり、プレゼンテーションなどにしたりしてまとめる。【重点：個別】	中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。 高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。